

## 松野千光寺跡経塚出土品

慶徳町松野の松野千光寺跡経塚は、僧行基が開いたと伝えられる千光寺の跡につくられたものである。

経塚は、寛文十年（一六七〇）偶然に掘り出されたが、このときは藩主の命令で埋め戻され、その後、昭和九年にまた偶然に掘り出され、出土品は故二瓶清氏が所蔵していた。しかし、昭和六十三年十月、遺族から喜多方市に一括寄付されたものである。

出土品の中に、高さ三七・四センチ、二四・三センチ角の石櫃があり、櫃の上面には「大治五年歳次庚戌四月二日癸酉」ふたには「大檀越財主平孝家散位源朝臣俊邦縁支同氏」の銘がある。また、櫃の側面には、寛文十年に埋め戻されたときの経緯が記されている。

大治五年は一三〇年である。

出土品の中には、他に高さ二八・五センチの青銅鑄製経筒、一四・五センチの金銅板製経筒、長さ一九センチの唐銅磬、高

さ一二・四センチの五鈷鈴二個、独鈷杵一個、壺六個があり一括市の指定となっている。

所在地 喜多方市字柳原 郷土民俗館  
指定年月日 平成二年三月二十五日



## 大般若経 六百卷 附経櫃六合

関柴町中善寺にある大般若経は、元禄十六年（一七〇三）中善寺の住職となつた栄昶が、元文四年（一七三九）〜寛延四年（一七五二）にかけて、関柴町萱場の草庵で書き写したものである。

栄昶は、それまですたれていた中善寺の住職となつて再興を成しとげた人で、人々からは木食上人として敬われた。

大般若経は、栄昶の直筆によるもので歴史上価値の高いものである。ただし、弟子たちの筆によるものも数十卷含まれており、また、欠本も一二卷ある。なお、経櫃六箱も同時代のものであり、文化財として価値の高いものである。

所在地 関柴町関柴字赤坂後 中善寺

指定年月日 昭和六十二年四月九日

